2024年度　活動報告書

法政大学ボランティアセンター

２０２４年度 法政大学ボランティアセンター 活動報告書　目次

２０２４年度ボランティアセンター活動報告

巻頭言（内山　政春　全学ボランティアセンター長）　・・・・・・・・・・・・・　２

ボランティアセンターについて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４

市ケ谷ボランティアセンターについて

２０２４年度　市ケ谷ボランティアセンター活動の概要・・・・・・・・・・・・・　６

２０２４年度　市ケ谷ボランティアセンター運営委員会・・・・・・・・・・・・・　８

２０２４年度　市ケ谷ボランティアセンター来室者数集計・・・・・・・・・・・・　９

２０２４年度　市ケ谷ボランティアセンター学生団体紹介・・・・・・・・・・・・１０

２０２４年度　市ケ谷ボランティアセンターイベントカレンダー・・・・・・・・・１２

２０２４年度　市ケ谷ボランティアセンター活動の報告・・・・・・・・・・・・・２４

小金井ボランティアセンターについて

２０２４年度　小金井ボランティアセンター活動の概要、活動総括

（小金井ボランティアセンター長　鍵和田　聡）・・・・１２０

２０２４年度　小金井キャンパス　ボランティア活動カレンダー（参考）・・・１２１

２０２４年度　小金井ボランティア活動・研究公開サポート制度採択状況（参考）

・・・・１２２

ソーシャル・イノベーションセンター（多摩）について

２０２４年度　ソーシャル・イノベーションセンターの活動の概要・・・・・・１２４

２０２４年度　ソーシャル・イノベーションセンター学生団体紹介・・・・・・１２６

２０２４年度　ソーシャル・イノベーションセンター活動の報告・・・・・・・１２７

２０２４年度採択された助成金一覧・メディア掲載一覧・・・・・・・・・・・・・・１３５

２０２４年度　ボランティアセンター活動報告書　巻頭言

ボランティア活動の振り返りと今後の課題

法政大学ボランティアセンター長
市ケ谷キャンパスボランティアセンター長
国際文化学部　内山政春

一昨年１月１日に能登半島で地震が発生した当初、支援活動に向かおうとするボランティアを批判する声が起こったことについて、昨年度のボランティアセンター活動報告書の巻頭言で触れました。このような発言が一部の政治家によって、しかも党利党略の面からなされ、マスコミを通じて広がり、そのことがボランティアを志す人々に冷や水を浴びせる結果となったのは否めません。しかし現地で見聞きしたのは、ボランティアは足りず、やるべきことはいくらでもある、という現実でした。

私たちボランティアセンターでは、昨年の夏休み、センターに置かれた学生団体の１つである「チーム・オレンジ」を中心とするメンバーが能登半島の輪島市に赴き、３日間、２班に分かれてボランティア活動を行ないました。私を含む教職員も学生たちに混じって同じ作業をしましたが、それは、俗語で表現すれば「ガチボランティア」ともいうべき炎天下での重労働でした。

これも昨年この欄で書いたことの繰り返しになりますが、ボランティアとは「困っている人たちの役に立ちたい、助けてあげたい」という自分自身の気持ちが出発点にあるのです。ラテン語 voluntas（意志、欲求、欲望）がボランティアの語源であることをあらためて強調しなくてはなりません。ボランティアは決して「ただ働き要員」ではなく、地方自治体長の意思によって「投入」されるような受け身の存在ではないのです。

前置きが長くなりました。法政大学では、市ケ谷と小金井の２キャンパスにボランティアセンターを置いています。多くの活動はキャンパスの特性に合わせてキャンパスごとに行なわれているので、ここでは市ケ谷キャンパスの状況について簡単にご紹介することにいたします。

市ケ谷ボランティアセンターの活動の多くは、３つの学生団体が中心になって行なわれています。上記の「チーム・オレンジ」がその１つで、東日本大震災を契機に「東北被災地のために私たちにできることを」という理念で発足しました。「チーム・オレンジ」は震災から数年間、もっぱら東北被災地を支援する「ボランティアツアー」を行なってきました。しかし時が経つにつれ、当時の状況を肌で感じることのできる世代も減ってきますし、私地震、震災当時東京にいたために、被災地の状況はマスコミを通じて知るしかありませんでした。そのため、まずは「被災地を知る」ことを目的に、近年は春休みに「スタディツアー」、夏休みに「ボランティアツアー」を１年に１回ずつ行なってきました。さらに昨年３月には，はじめて阪神淡路の被災地を巡るスタディツアーを行ない，今年３月には，これもはじめて熊本スタディツアーを実施するなど、活動の幅を全国に広げていきました。ちなみに熊本への被災地支援は、私がやはりボランティアセンター長であった

2016 年度にも、東北と熊本を支援する物産展を開催していますが、今回、初めて現地に赴くことになったわけです。

いつ起きるともわからない震災に備えて被災地で学んだことを私たちの生活に生かしていくことも今後ますます重要になってきています。その一環として「チーム・オレンジ」では、学生や教職員が大学で被災したと仮定して、負傷者を介助する訓練をしたり非常食を食べたり体育館に寝泊りをする「防災キャンプ」を実施しています。詳しい内容は本文に譲りますが、地域の消防署や企業の協力を得て、昨年度は非常に充実したものになりました。この活動は、より広い層の参加が望まれる、有意義なものだと言えると思います。「チーム・オレンジ」の活動は、NHK のニュースでも取り上げられ、学生が出演したほか、東京消防庁の「第 21 回地域の防火防災功労賞」で選考委員特別賞を受賞しました。

さて、上記の「チーム・オレンジ」以外の学生団体に、ボランティアセンターには「ＶＳＰ（ボランティア支援プロジェクト）」と「東京メトロ飯田橋駅ボランティア」があります。前者は、ボランティア全般、身近なところでは、大学キャンパスや近隣の清掃活動、献血活動の応援から、海岸清掃、農業ボランティア体験など多種多様な企画を立案し、実施しています。またさまざまな意味でいわゆるハンディキャップを持った人たちを理解するための活動、たとえば盲導犬について学ぶ講座や、毎年恒例となっている手話講座なども行なっています。

後者は、その名のとおり、飯田橋駅構内で介助を必要とする利用者への声がけや道案内などを、東京メトロのご協力いただきながら行なっています。後発のグループではありますが、毎年地道に活動を続け、ノウハウも蓄積されてきました。地域交流、地域貢献という意味でも意義のあるボランティア活動だと思っています。

これらのボランティア活動は、学内では学生センターの教職員各位、学外ではさまざまな組織の協力を得て行なわれています。またスタディツアー、ボランティアツアーはその活動の性格上、かなりの費用がかかるものですが、同窓会からも援助をいただいております。ボランティアセンターの活動にご理解とご支援をいただいていることに対して、関係各位に深くお礼を申し上げるとともに、今後ともご理解とご支援を賜りますようあらためてお願い申し上げる次第です。

ボランティアセンターでは、時代の趨勢に合わせ、YouTube に「法政ボラセンちゃんねる」を設け、活動を発信しています。ボランティアセンターのサイトからリンクできるようになっています。何かの機会にご覧いただければさいわいです。このような作業も含めた日頃の活動を支えてくださる、実務担当者の職員さん各位の献身的な働きがなければ、ボランティアセンターの活動はありえません。心からの敬意を表したいと思います。

最後になりましたが、今年度まで副学生センター長として、ボランティアセンター副センター長でもあられたデザイン工学部の土屋雅人先生が、2025 年度から全学ボランティアセンター長と市ケ谷ボランティアセンター長をつとめてくださることになりました。土屋先生からは、たとえば防災キャンプの経験者が実際の災害時にリーダーシップを取れるような制度を作るべきだ、というような、ありがたい助言をすでにいただいております。土屋先生の任期中にぜひ実現させていただけたらと思います。土屋先生はまた学生団体とも積極的にコミュニケーションをとる姿勢を示しておいでです。ボランティアセンターの活動が、さらに活発になることを信じてやみません。

ボランティアセンターについて

1　活動内容

（1）　ボランティアコーディネート（情報収集／情報提供）

大学に数多く寄せられるボランティア情報を審査し通過したボランティア情報を、掲示板／ラック／ファイリング／メーリングリスト等で学生に公開しています。

（2）　ボランティア啓発活動

ボランティアの啓発活動の一環として学生スタッフとボランティアセンター教職員が協力してボランティア講座を実施しています。

（3）　ボランティア団体活動支援

ボランティアセンターに所属している学生スタッフが活動を円滑に進めることができるようにボランティアセンターで物品の貸し出しや打ち合わせの参加、各種相談を受け付けています。

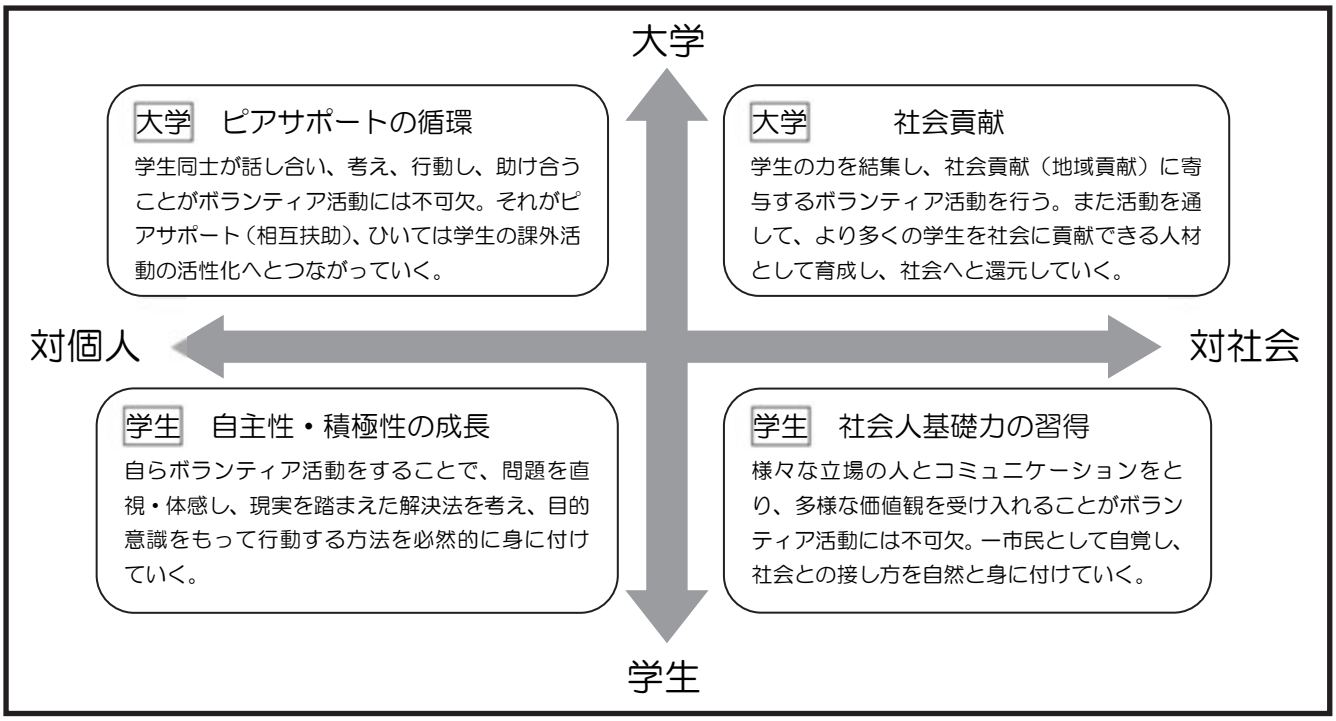
（4）　学内外ネットワークの構築

各キャンパス周辺地域やボランティア活動先の自治体、・教育機関・大学近隣の千代田区などと相互に連携をとり、地域貢献を主とする活動をしています。さらに学生スタッフが中心となり、他大学とも交流をはかっています。

（5）　学生スタッフの募集・育成

学生スタッフと協力したボランティア説明会の開催など学生募集のサポートを行っています。またボランティア活動やボランティア講座の企画、運営を通して学生スタッフの育成もおこなっています。

2　ボランティアセンターの役割



3　ボランティアセンター全学運営委員会

日程：2025 年 1 月 30 日（木）

議題：各地区からの活動報告、近隣の大学、施設と連携したプログラムの実施、震災復興支援・防災啓発活動への取り組みの継続、基幹プロジェクトの継続的実施、学内イベントの継続的実施、学生スタッフの育成、キャンパスボランティアセンターの連携などについて